



※大文芸会には過去最高の14名のみなさんが参加しました。

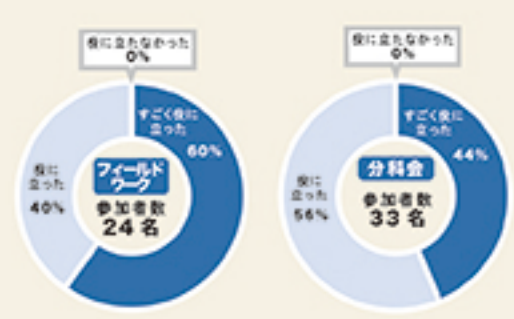
アンケートには、「活動というより生きていく上で大きな参考になった」「持続可能な社会をどう構築するか、田舎に住む私にとって大事なテーマになりました」など、生き方や暮らし方への指針をもらったという意見や、「日頃モヤモヤと思っていたり考えたりしている事を分かったり

仲間の熱気が、明日への意欲に変わる 研修と交流の2日間

易くまとめてお話を聞けた事でもっとも参考になりました」「とても素晴らしいお話で、今思っている事的にはまわって、分かりやすいお話でした。」「言葉にできなかったことを整理して再認識していただいたことへの感謝の言葉が多く寄せられました。

アンケートには、「他の地域の問題点を知ることができた。主体的に動ける人材を育てるという教養をしているのか興味深い」「苦勞している点や工夫が短くまとまっていて分かりやすかったです」など好評で、もっと細部にわたりお話を聞きたいとの声が上がりました。

《第1分科会 / フィールドワークのアンケート結果》



翌日のフィールドワークでは、ヒト大学のインターン生を受け入れている「喫茶落人」へ行って、ご主人の長瀬吉実さんと奥様の美代子さんにリアルな受け入れの様子を伺いました。「人とのつながりの大切さを実感するお話でした。コーヒーとおぜんざいもとっても美味しかったです」と、お二人のお人柄とおもてなしに感謝の声が多く上がりました。

お客様のために工夫する おもてなしの心に感激

第2分科会は、「外国人を泊めててんやわんやの若女将座談会」と題して、白川郷の民宿女将、大谷公子さんと野谷芽衣子さんのお二人とトヨタ白川郷自然学校でお客様対応をしている辻丸春之さんに、インバウンドのおもてなし最新線のリアルな現状をお話いただきました。

地域課題解決に主体的に 動ける人材育成を

基調講演のあとは3つの分科会に分かれて研修しました。第1分科会は、「青年よ、白川郷をめざせ！」「自分らしく生きる」を求めて」と題して、「白川郷ヒト大学」を主宰する柴原孝治さんを講師に、関係人口をどう構築していくか、ヒト大学の実践をもとにお話をさせていただきました。

「村で主体的に行動する人材を育てる」ことをめざして始めたヒト大学。主体的に動く人材を育成する難しさに立ち向かい



サコンさんの誠実なお人柄と勉強熱心さに感心する声が多くありました。

パンを通して村おこしを図る熱い思いが伝わった

第3分科会は、「世界遺産白川郷よ、何処へ行く！ 白川郷の観光振興」と題して分科会を。翌日は、「パン職人と作る白川郷の農泊ツアー」と題してフィールドワークを行いました。分科会では、白川村役場から村の現状が説明され、パン職人の東川さんと共に白川村の新しい魅力の開拓と発信について発表がありました。

参加者からは「一見白川村と結びつかないような「パン」を通じて村おこしを図る思いを垣間見て参考になりました」「村の

方針を具体化していく事が重要と改めて考えました」「おなかパンパンになりましたが、グループ発表はそれぞれの視点がとても参考になりました」と、東川さんの美味しいパンに感動し、地元食材を大胆に活用するアイデアに感心して、同時に参加者の方々の幅広い意見交換ができたことがよかったとの声が多数ありました。

「たくさん交流ができた」 「来てよかった！」

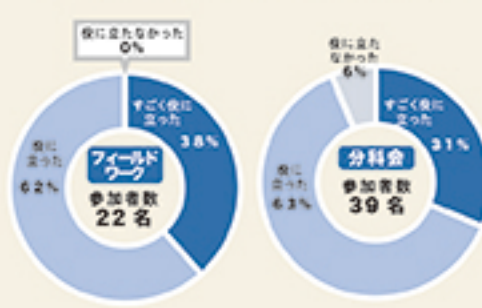
7月から準備を始めた大会も、始まってしまえばあっという間。しかし大会を通して、たくさんのお会いと交流が生まれ、たくさんの方々が集まりました。

今大会が日々の実践の力となり、新しい活動の契機となることを心から願っています。

受入地白川村のみなさん、そしてご協力いただいたすべてのみなさん、本当にありがとうございました。



《第2分科会 / フィールドワークのアンケート結果》



「現場の声はやはり実感ありますよね。合掌造りでの生活を楽しんでいただけよう工夫されている様子が伝わりました」「インバウンドの対応を民宿それぞれ考え実践されており、苦勞話を聞けた。白川村そのものが非常に日常としておもてなしをされている点に魅力を感じた」など、参加者の方々にも女将たちの思いが伝わっていました。

2日目のフィールドワークでは、ラオス人観光ガイドのスワントーン・サコンさんに外国人ならではの視点で白川郷を案内していただきました。

「とても勉強されており、私たちより岐阜のことを知っている点も自分たちも学ぶべきことだと感じた」「大事に大切に守り継がれているものをつないでいく生き方に学びました」と、

《第3分科会 / フィールドワークのアンケート結果》

